

製品名: TBX2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab18703**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	74kDa

抗原情報

遺伝子名	TBX2
別名	TBX2; T-box transcription factor TBX2; T-box protein 2
遺伝子 ID	6909.0
SwissProt ID	Q13207
免疫原	抗血清はヒト TBX2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 251-300

背景

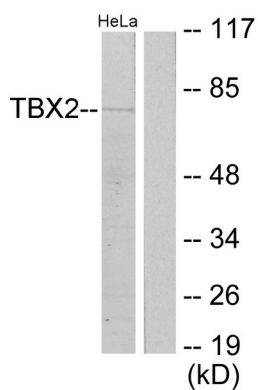
この遺伝子は、共通の DNA 結合ドメインである T ボックスを共有する、系統学的に保存された遺伝子ファミリーの一員です。T ボックス遺伝子は、発生過程の制御に関与する転写因子をコードしています。この遺伝子産物はマウス Tbx2 のヒトホモログであり、シヨ

ウジヨウバエの omb タンパク質と高い配列相同性を有しています。発現研究は、この遺伝子が不死化因子として腫瘍形成に関与する可能性があることを示唆しています。この遺伝子では、選択的ポリアダニル化による転写産物の異質性が指摘されています。[RefSeq 提供、2008年7月]機能: 中胚葉分化に必要な遺伝子の転写制御に関与する。おそらく四肢パターン形成にも関与している。類似性: 1つのTボックス DNA 結合ドメインを含む。組織特異性: 成体では主に腎臓、肺、胎盤で発現する。心臓と卵巣では弱い発現を示す。

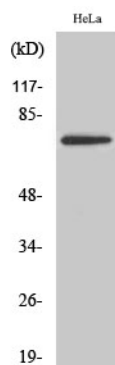
研究分野

エピジェネティクスと核シグナル伝達; 転写; 癌感受性; プロトオンコゲン; 転写因子; 癌; 癌タンパク質 / 抑制因子; 癌タンパク質

画像データ



TBX2 抗体を用いた HeLa 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



TBX2 ポリクローナル抗体を使用したさまざまな細胞のウェスタンブロット分析。